

ワックスボール作りに挑戦する子供たち



福島の児童「灯笼できた」

慈善団体が小樽に招待

東日本大震災の被災地を支援する小樽市のボランティア団体「やれること実行委員会」は27日、福島県伊達市の小学6年生10人を小樽に招き、ろうで固めた灯笼「ワックスボール」作りなどで親睦を深めた。

同団体は2011年から被災地に支援物資を送り、被災者を小樽に招待するなど交流を続けている。今回は同団体と交流のあった現地の家族を通じて、伊達市のソフトテニスクラブに所属する10人を招待。25日から3泊4日の日程で、市内散策や小樽商大生との雪遊びなどを企画した。

27日は子供たちが市内で、ワックスボール作りに

挑戦。同団体のスタッフらとともに直径15センチほどのボールを製作し、最後に落ち葉を貼り付けてオリジナル作品として仕上げた。伊達東小6年の菅野貴也くん(12)は「ろうが手にかかって熱かったけど、うまく作れた。雪合戦やかまくらづくりも面白かった」と話した。

(三坂郁夫)